

研究成果情報		農産	6	稲	栽培
新技術・情報名	なばな後作水稲「キヌヒカリ」の窒素施肥法			分類	②

## 1. 成果の内容

### 1) 技術・情報の内容及び特徴

なばな後作圃場の土壌中残存アンモニア態窒素の現地実態調査を行い、極早生良食味水稲品種「キヌヒカリ」の良質安定栽培のための窒素施肥法を明らかにした。

- (1) 現地圃場における土壌中残存アンモニア態窒素含量は0.2~5.8mg/100gの範囲(10a当たり窒素量に換算して0.3~7.5kg)にあり、圃場間によるバラツキが大きい。なばなへの最終追肥時期が遅い圃場では、残存アンモニア態窒素含量が多くなる。
- (2) 同一の基肥窒素施用量でも水管理により倒伏程度に差があるものの、残存アンモニア態窒素含量が概ね1.5mg/100gを越えるとキヌヒカリの倒伏を招く。
- (3) なばなへの最終追肥は3月上旬までとし、残存窒素量が多い圃場(1.5~5.8mg)では、なばな後作「キヌヒカリ」の基肥窒素施用量(N成分kg/10a)は0~3kg程度とする。残存窒素量が少ない圃場(0.2~0.8mg/100g)では5kgが適量である。穂肥は1回目1.5kg(出穂前22~18日)、2回目1.5kg(1回施用後7~10日後)とする。

### 2) 技術・情報の適用効果

なばななどの作付体系におけるキヌヒカリの作柄が安定する。

### 3) 適用範囲

湿田、半湿田を除くなばな後作圃場におけるキヌヒカリの水稲早期栽培地帯。

### 4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) なばな残渣のすき込み時期が遅れると水稲の活着不良を起こすことがあるので3月下旬までにすき込む。
- (2) 生育に応じて水管理を徹底し、倒伏軽減を図る。

2. 具体的データ

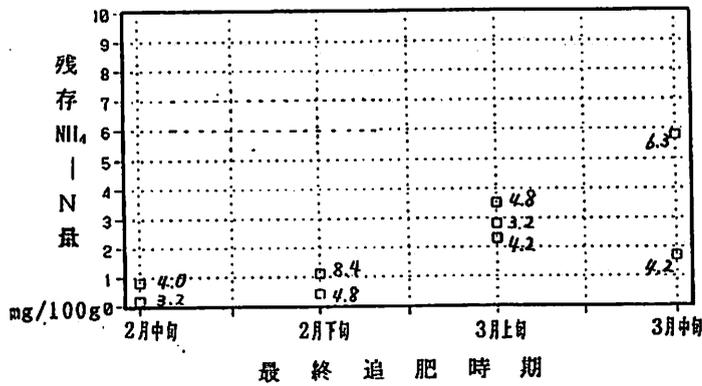


図1 現地におけるなばなの最終追肥時期と残存NH<sub>4</sub>-N量 (平成3年)  
注) 数字は10a当たり追肥窒素施用量

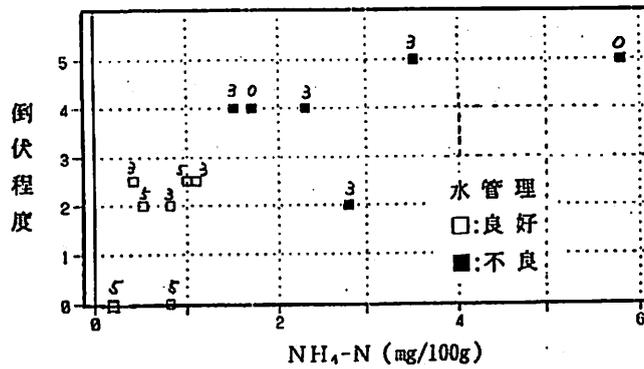


図2 現地におけるなばな後作圃場の残存NH<sub>4</sub>-N量と倒伏程度 (平成3年)  
注) 数字は10a当たり基肥窒素施用量

表1 残存窒素量の少ない圃場におけるキヌヒカリの収量及び品質 (豊前分場、平成1、2年の平均)

前基肥 作N量	kg/10a	㎡当り 釋長	cm	㎡当り 總數	本	100粒 數	登熟 歩合	%	玄米 千粒重	g	a当り 収量	kg	同左 比率	検査 等級	倒伏 程度
なば	5	76	429	321	83	21.5	58.4	113	1下	無					
な	3	74	397	308	85	21.4	53.3	107	"	"					
な	0	72	342	256	81	21.9	49.9	100	"	"					
休 閑	5	76	412	314	84	21.4	53.7	129	"	"					

注) 残存NH<sub>4</sub>-N 0.8mg/100g、可給態窒素量 11.4mg/100g (平成2年)

3. その他特記事項

担当部 研究室名: 豊前分場 普通作物研究室  
 研究担当者名: 小田原孝治・矢野雅彦・松江勇次  
 研究課題名: 新品種導入に関する栽培法確立  
 研究期間: 平成元年～平成3年  
 予算区分: 経常  
 既発表論文・資料名等: 平成元～3年度 豊前分場 普通作物研究室  
 夏作試験成績書  
 取りまとめ責任者名: 小田原孝治